

3 各事務室報告

3.1 図書館総務事務室

図書館総務事務室は、図書館全般の予算管理、契約、交渉等の庶務業務、経理業務、図書受入・整理業務、雑誌業務、図書館システム関連業務、及び特別資料などの大型コレクション資料、洋雑誌・電子資料の発注業務を含め、図書館の管理運営業務の大部分を担当している。これら経常業務に加えて、2012年度開館した新和泉図書館関連の調整業務、2013年度開館予定の中野図書館関連の調整業務などを行った。

また、2010年度から規程が整備された明治大学マンガ図書館の運営に関する業務、明治大学国際マンガ図書館(仮称)設置計画に関する業務も担当している。実際には、これらマンガ関連の業務追加に伴う人員手当ては行われておらず、非常に厳しい少人数下での業務遂行となっている。

3.1.1 補助金

2012年度の補助金申請も、2011年度同様、教育・研究装置及び教育基盤・研究設備にかかる事業募集に応募した高額資料「阿呆船」について採択された。

加えて、補正予算案に係る事業募集により申請した、「山一証券株式会社 マイクロフィルム版 第1集、第2集、第8集、第12集」、「米国統合参謀本部(JCS)文書」、「パリ・その歴史と景観」が採択された。

3.1.2 除籍

2012年度は、2011年度実施を見送った分を含めて3回実施した。第1回(2012年7月3日)は4,449冊(和漢書3,164冊、洋書1,285冊)、第2回(2012年11月5日)は829冊(和漢書572冊、洋書257冊)、第3回(2013年3月1日)は2,176冊(和漢書1,528冊、洋書648冊)の除籍をそれぞれ行った。

除籍処理業務は、資料収容スペースを確保するだけでなく、新規購入等により蔵書を活性化させるためにも重要な業務である。特に中央図書館の書庫収容は限界に達しており、図書館全体の喫緊の課題である。例年、年間1万冊の除籍処理を計画しているが、2011年度の未実施分も勘案すれば、2012年度の年間除籍冊数が7,454冊に留まったことは、大きな課題と言わざるを得ない。

3.1.3 図書館関連規程の改正

本学図書館については、「明治大学図書館規程」(昭和35年4月1日制定)に基本的な事項を定め、「明治大学図書館図書管理規程」(昭和46年4月22日制定)に図書の収集及び管理の基本的事項を定めている。これらの規程に関し、2009年度内部監査において、図書館の管理する図書について整合がとれていないとの指摘があり、関係する規程の改正を検討した。さらに、これらの規程が制定以来、大幅な改正がなされないまま、運用の中で対応してきたことから、今後一層の適正な図書館運営を進めるためにも、全面的な見直しを行うこととし、「明治大学図書館規程」(2012年11月2日制定)、「明治大学図書館図書管理規程」(2012年11月2日制定)を制定した。加えて、「明治大学図書委員会規程」(昭和35年4月1日制定)も廃止し、これに係る規定を新たに制定した「明治大学図書館規程」に盛り込んだ。

旧規程は、2013年3月31日をもって廃止となり、新規程は、4月1日施行となるため、2012年度図書委員は、図書館長及び図書館副館長ともに2012年度末をもって任期満了となった。2013年度には、新たな任期による図書委員が選出されることとなる。

また、規程改正に伴い、図書委員会の下に置かれる各種委員会の名称を「部会」並びに「分科会」と改称されることとなり、それら運用内規の改正も行った。

3.1.4 目録・装備の業務委託

目録・装備委託業者は2010年度に一斉に切り替わり、3年目を迎えた。毎月定例会を開催し、実績報告、業務効率アップ、品質維持・向上について協議している。

3年間の継続業務により、当館の要望レベルに確実に近づいているが、今後もさらに向上させていくためには、図書館職員のスキルも高くなければならない。業務委託が進む中で、人材育成に課題が残る。

3.1.5 城市郎文庫

2012年9月末までに複数回にわたり城市郎氏よりコレクションの寄贈をうけた。その後コレクション内の仕分けを行い、発禁本の周辺資料約1,800冊の目録・装備を行った。これらは和泉図書館に配架済である。2013年度も継続予定。

3.1.6 ポラック文庫

2012年9月よりクリスチャン・ポラック氏旧蔵コレクションの整理を開始した。コレクション名称を「ポラック文庫」とし、配架場所は貴重書庫および中央図書館自動書庫とした。2012年度は洋書1840冊、和書50冊の目録・装備を行った。2013年度も継続予定。

3.1.7 政策経費購入資料への対応

経常予算以外で購入された以下の資料の目録・装備を行った。

- 外国図書の充実資料（520冊）
- 設置経費関係 総合数理学部（1,235冊）
理工学研究科（381冊）
情報コミュニケーション研究科（30冊）
教養デザイン研究科（100冊）
先端数理科学研究科（325冊）
国際日本学研究科（298冊）
中野基礎資料費（固定5,438冊 簿外2,244冊、計7682冊）

3.1.8 雑誌業務

NIIへの一括所蔵更新について、NII側が従来の方式を受け付けなくなったため、iLiswaveJのNACSIS-AUTO機能の使用を検討したが、通常業務となじまない動作があるため、CATP方式による更新とした。

3.1.9 指定書店方式発注(データ付納品)の見直し

指定書店方式発注について、開始後8年を経過したため、納入業者の作業を再確認し、発注、受入、目録各担当の作業を明確にした。また、納入業者とは覚書等を作成した。

3.1.10 中野図書館への移転資料のデータ変更

中野キャンパスに移転する学部・研究科で購入した既存資料（約9,500冊）のNIIデータについて、図書館システム担当の協力のもと、書誌対中野所蔵が1対1のものについてNII所蔵データを中野図書館所蔵に一括変更する作業を行った。書誌対中野所蔵が1対複数のものについては2013年度に行う予定である。

3.1.11 図書館消耗品費

図書館専用の装備・備品等に関わる消耗品の管理を図書館で行うこととなって2年目を迎えた。年度初頭に年間使用予定の消耗品を一括購入し経費を抑えたが、予算の大幅な不足のため、他事業経費を削減してこれに充てた。

3.1.12 システム関連業務

図書館パッケージシステムでは、新しい検索システム(TNSearch)を導入することで、課題となっていたOPACの検索結果表示までの時間を大幅に短縮することに成功した。

夏に中央図書館利用者用貸出ノートPC(75台)を、年度末に生田図書館利用者用マルチメディアエリアPC、貸出ノートPC(87台)の更新作業を行った。どちらも安定稼動している。

2013年度に控えている図書館業務用PCの更新に先駆けて、図書館ファイルサーバ、アクティブディレクトリサーバ、プロキシサーバを導入、構築した。

中野図書館関連では、仕様設計に関わり、導入機器の設定・調整、移行作業に伴うデータ更新作業を行った。データ更新作業は引き続き2013年度も作業をすすめる。

3.2 中央図書館事務室

中央図書館は、大学創立120周年記念事業の一環として建設され、2001年3月16日に開館した。地域に開かれ、街と人の記憶に融合するように設計された図書館は、美しい内観と充実した設備を備え、2002年日本図書館協会建築賞を受賞した。専任職員9名、短期嘱託職員3名、業務委託スタッフ21名、総合インフォメーション6名あわせて39名および学生アルバイト若干名で運営されている(2013年3月31日現在)。

他の3図書館事務室と連携して、蔵書体系や図書館リテラシー教育の拡充を推進したが、2012年度の図書館活動、2011年3月11日の東日本大震災後の状況、その他の懸案事項について簡潔に記述しておきたい。

3.2.1 休日開館日におけるサービス

休日開館日は、業務委託による要員配置の都合から、利用者のセルフサービスが基本である。2008年11月以来、貸出、予約、配送本の受渡し、貸出ノートパソコンの利用についてサービスを実施してきた。電卓使用者のために多目的ホール、教員のために教員閲覧室を開放している。

3.2.2 図書の返却窓口

貸出図書の返却窓口は、1階エントランスの返却用ポスト、レファレンスカウンター、地下2階貸出カウンターの3箇所のほか、防災センター脇の返却ポスト(リバティタワー閉館中も対応可)、郵送宅配、和泉・生田図書館の窓口でも返却図書を受け付けている。長年の使用で老朽化した返却用ポストを新調した。

3.2.3 入館者総数・各種ガイダンス等

入館者総数は、880,263人(2011年度874,439人)で、前年度に比べ5,800人余り増加した。新入生ガイダンス(大学院研究科、会計専門職研究科、ガバナンス研究科・グローバルビジネス研究科合同。法科大学院は資料提供のみ)、文学部3年次ガイダンス、留学生オリエンテーション、新任教員ガイダンス、ゼミツアー、情報検索講習会を実施した。また国立国会図書館3級職員研修、図書館実習生、職場体験高校生を受け入れた。

3.2.4 中央図書館ギャラリー展示

ワーキンググループ(中央図書館事務室4名、図書館総務事務室3名、WG)で展示を行った。関係教員と連携しつつ、WGメンバーが企画・渉外、解説執筆、印刷物作成、展示作業、広報を担当した。展示タイトルは、後掲の「中央図書館ギャラリー展示一覧」に載せた。「城市郎文庫展―出版検閲と発禁本」は、朝日、読売、東京、日経の各紙で紹介された。千代田区ミュージアム連絡会に参加し、展示協力、情報交換を行った。

3.2.5 各種イベント等の開催

利用者マナー教育と学生の読書活動推進を兼ねて、中央図書館で図書館オリジナル・バッグのデザインコンテストを行った。最も人気の高いデザインで作成した図書館バッグは、各図書館・ローライブラリーで新学期または読書週間にあわせて配付した。

「知」による社会貢献として、7月29日に小・中学生が大学図書館の業務を体験する第4回「一日図書館長体験イベント 大学図書館長のイスをめざせ！」を開催した。

2001年3月16日開館以来の延べ入館者数が、2012年4月9日に1,000万人に達した。延べ入館者達成記念として、図書館長から該当者に認定証と記念品を贈呈した。

2012年11月10日に第2回ブックハンティング(学生による選書ツアー)を開催した。

第3回図書館書評コンテストは、「教育の場」として図書館の積極的な活用を奨励するとともに、優れた書評の顕彰を通して学生の読書活動を推進することを目的として企画した。3図書館で「書評の書き方講座」を6回行った。応募作品は、図書館4事務室有志の協力による予備採点、選考委員会による選考を経て優秀賞等が選定された。2013年2月1日に多目的ホールで授賞式を行った。このほか防災センターの指導で、館内整理の休館日に自衛消防訓練・避難誘導訓練を行った。

3.2.6 施設・設備の保守・管理

大学の国際化に対応して、サイン類の多言語化・更新を行った。地下3階マイクロフィルム搬送機、ダムウェーター、ブックチェックユニット、ブックディテクションシステム(BDS)等の定期点検または修理を行い、ブックチェックユニットは2台新調した。書庫連絡通路天井漏水パン設置工事、開架エリアダウンライトのLED球交換、記念図書館書庫空調コンバータ設置工事を行い、環境改善や省エネに資した。閲覧用椅子110台のクロス張替え、折畳みイス・机等の修繕、書架棚板のペンキ塗り直しを行った。

3.2.7 大学主催「環境展」への協力

「環境展」(リバティタワー1階でパネル展示、2012年12月10日～12月14日)で、図書館所蔵の環境問題関連図書のリストを配布した。内容は、地球温暖化や食の安全等について本学教員等が執筆した図書の一覧であり、当該図書は図書館入口に展示した。

3.2.8 ローライブラリーと法学研究科院生の利用促進

ローライブラリーは、中央図書館の館内整理休館日も開館した。また法学研究科院生は、法科大学院生と同様に学生証の提示で入館できる。ローライブラリー閲覧室に隣接する「エルムの森」資料室の拡張工事計画について、法学部事務室から連絡を受けたが、2012年度に改修工事計画の進展はなかった。

3.2.9 利用者からの要望への対応

2001年の図書館開館当初から、投書箱を設置して利用者の声に耳を傾け、図書館サービスの改善に努めてきた。利用者の「声」に応じて、下記のとおりサービスを改善した。教員用・院生用コピー機の設置場所変更、夏期休暇中の開館時間延長(2012年夏から9時開館実施)など。また2013年3月1日第2回フォーカスグループ「図書館どうですか? How are we doing?」を開催し、中央図書館事務室と業務委託業者責任者が、利用者の学生・院生から直接、生の声を聞いて質疑に応じた。今後とも利用環境の改善・サービスの質的向上に取り組んでいきたい。

3.2.10 国際交流への貢献

大学の国際交流推進にともなう海外からの視察や図書館利用者を受入れた。来館者名称を挙げれば、明治大学・タイ王国シーナカリンウィロート大学共同プログラム、明治大学夏期短期社会科学プログラム、明治大学・ノースイースタン共同プログラム、明治大学・南カリフォルニア大学共同プログラム、明治大学日本語短期研修プログラム(夏期)、メイジ・ユニバーシティ・ロー・イン・ジャパンプログラム、International

Conference on Structural Economic Dynamics, 情報コミュニケーション学部短期学生交流プログラム 2012 (タイ王国キングモンクット工科大学・シーナカリンウィロート大学), 国際交流基金関西国際センター図書館派遣員(韓国 2 名・キルギス共和国 1 名), Cardiff Business School 教員, 明治大学日本語短期研修プログラム(冬期)などがあつた。

3.2.11 東日本大震災後の対応

2011 年 6 月 27 日から震災前の通常開館体制に復旧したが, 2011 年度末から 2012 年度初めにかけて, 書架棚板の最上段を図書の転落防止機能の高い棚板に取り換えた。落下して損傷した準貴重書の補修について, 文部科学省に平成 23 年度私立学校建物其他災害復旧費補助金を申請し, その交付を受けて補修を行った。

3.2.12 その他, 懸案事項

ポラックコレクションの新規受け入れのため, 地下 3 階自動書庫の文庫コレクションを生田保存書庫に移管したが, 地下 2 階書庫, 第 3 書庫の狭隘化の解消にはいまだに日月を要する。増大する雑誌・電子ジャーナルへの適正な対応, 盗難防止・館内秩序維持のため監視カメラの設置, 地下 3 階の書架増設, 共同閲覧室の扉から漏れる騒音遮断のため防音壁の設置等が懸案となっている。

3.3 和泉図書館事務室

3.3.1 業務体制と人事政策

業務体制は派遣職員が嘱託職員に切り替わっただけで専任職員の補充はなかつた。人事異動による業務体制では, 担当業務を複数経験することがキャリアパスとなり成長を促すという観点から行った。それは異動があれば抜けた穴に異動してきた人を埋め合わせるというやり方ではなく, 既存者がその穴を埋めて異動者に自分の担当業務を担わせるということである。これが後進の育成に役立ち, 活気ある職場作りを行うことに繋がったといえる。

3.3.2 サービス体制と運用

2012 年 5 月 1 日新図書館開館から 2013 年 3 月 31 日までの入館者数 783,869 人, そのうち学外者(校友, 杉並区民, 山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム)の入館者は合計 57,827 人であつた。また他機関などからの見学者(件数)は 1,950 件であつた。

館内は午後の時間帯, とりわけ水曜日が最も賑わいを呈し, 混雑解消のために業務委託者 2 名を入館ゲートに配置した。その一方, レポートの書き方の指導を開始し, 1 階サーチアシストと 2 階レポート・論文の書き方ナビ・ステーションでサービスを行った。この取り組みは, 学習支援の一環であるが, 1 階は専任職員が担当することとして職員の能力開発に成果を上げている。また, 様々なイベントを企画し, 図書館外の部署と連携して図書館利用の活性化を図つた。

3.3.3 新入生ガイダンス

図書館利用案内(約 30 分)を実施した。新図書館オープン前の図書館ガイダンスの目標を「新図書館への誘い」と位置付けして, 説明者のプレゼンスキルの実証の場とした。スタンプラリーは例年どおり実施した。さらに, 図書館の本を借りた新入生に対し, 図書館オリジナルバッグをプレゼントした。図書館バッグのプレゼントにより貸出冊数も前年度よりも増加し, 新入生に本をより身近に感じてもらえることに成功した。

3.3.4 杉並区図書館ネットワーク

杉並区民・区内協定校のライブラリーカード発行枚数 306 枚となり, 前年度発行枚数 44 枚より 262 枚増となった。校友のライブラリーカード発行枚数は 282 枚であり, 前年度発行枚数 28 枚より 200 枚増えて, こ

れも大幅な増加となった。ライブラリーカード発行枚数が大幅に増加したため消耗品の消費が増えることとなった。

杉並区図書館ネットワーク講演会「没後 100 年 石川啄木の魅力 - 短歌・詩・日記を中心に」を開催した。参加者は約 60 名であった。

【日 時】 2012 年 10 月 20 日(土) 午前 10 時～12 時

【場 所】 明治大学 和泉図書館ホール

【講 師】 池田 功 明治大学政治経済学部専任教授

社会連携の一環として、杉並区立松渓中学校 2 年生の職場体験学習を受け入れた。男子 1 名、女子 1 名。2012 年 5 月 21 日(月)～5 月 25 日(金)

3.3.5 利用者サービス(接遇)の改善

前年度に引き続き、毎朝 10 分間、入館ゲートにて入館者一人ひとりに挨拶をしている。これは、職場の結束を図るためにも有効であり、開館業務を担う部署で行うことは意義深い。なお、投書は 73 件あった。改善できる要求は直ちに実行した。要望は多岐にわたっており、従来のような室温や飲食に関する投書は激減した。

3.3.6 広報活動の充実

主な報道

- TV
 - YTN(大韓民国のケーブル TV) 2012 年 5 月 17 日取材/「日本『行ってみたい図書館』地域の名所に浮上」
 - TBS Nスタ 2012 年 8 月 17 日放送/「イマドキ図書館事情」
 - J:COM 2012 年 11 月 6 日取材/「平成 24 年度すぎなみニュース No.34」/「大学図書館紹介 No.1『明治大学和泉図書館』」
 - NHK 総合「首都圏ネットワーク」 2012 年 11 月 1 日放送/「カフェも電子書籍も 変わる図書館」
 - お元気ですか日本列島 2012 年 11 月 19 日放送(上記の再放送)/「カフェも電子書籍も 変わる図書館」
- 新聞
 - 日本経済新聞 2012 年 5 月 8 日 朝刊 35 面/「明大新図書館 ラウンジ風に 和泉キャンパス、地元民使いやすく ソファやカフェ充実」
 - 東京新聞 2012 年 5 月 24 日 朝刊 28 面/「TOKYO 発＝変わる大学図書館 お茶をしながらソファでゆったり おしゃべり可能空間」
 - 日刊建設工業新聞 2012 年 8 月 24 日 朝刊 12 面/「concept View＝明治大学創立 130 周年記念図書館 人と人、人と情報を結ぶ架け橋」
- 雑誌
 - 田中義之[ほか著]「明治大学創立 130 周年記念和泉図書館ーリエゾン(架け橋)を表現した曲線の重なり合う 屋根ー」『鉄鋼技術』Vol.25, No.290, p60-71, 2012 年 7 月
 - 松田平田設計[著]「明治大学創立 130 周年記念和泉図書館ー人と人、人と情報を結ぶ架け橋ー」『新建築』87 巻 15 号, p143-151, 2012 年 9 月
 - 安部芳治[著]「大学プレスセンターニュースダイジェスト(56)＝『知の拠点』としての進化する大学図書館」『サンデー毎日』92 巻 1 号, p89-91, 2013 年 1 月 13 日
 - 「特集 新入生必見! 和泉図書館徹底探求! トショカン・クエスト」『bootleg』明治大学フリーペーパー工房, Vol.22, 2013 年 3 月

3.4 生田図書館事務室

3.4.1 空調設備更新工事

生田図書館の空調設備は耐用年数を超え、消費電力量が大きい、天候等諸条件に応じた温度調節ができない、館内の複雑な構造も相まって、空調使用時にエリアにより著しい温度差が生じる等、深刻な問題を抱えていたが、2012年度末に更新工事が実施された。2月4日から3月25日の間、1・2階の閲覧エリアを閉鎖、工事関係者以外立入禁止としての大規模工事で、当該期間中は利用者サービスを大幅に縮小することとなったが、この工事により長年の懸案が解消された。

期間中の主たるサービス内容としては、開館時間は、平日が9:00～18:00、土曜が9:00～14:30。日曜・祝日は閉館。職員通用口内に貸出カウンターとOPAC端末、事務室入口付近にレファレンスカウンター、利用者用コピー機(白黒)を設置し、B1・B2書庫及び保存書庫配架資料に限り、スタッフの出納による貸出し、配送を実施した。また、特別措置として、教員から希望を取り、閉鎖エリア配架の一部資料をアクセス可能エリアに別置して貸出し可能にした他、新着雑誌の寸借を可とした。なお、学生の便宜のため、第一校舎A館内に自習室を確保した。

3.4.2 閲覧室整備

夏季の暑さ対策及び省エネの一環として、6月に2階閲覧室の天窗に日射調整フィルム貼付工事を実施した。また、3月に利用者用マルチパソコン及び貸出用パソコン全台の新規入替えを行った。今回の入替えを機に据置きパソコンも全てノート型とした。

3.4.3 展示ギャラリーの運用

2012年度は10件(学部・研究科等企画8件、図書館企画2件)の企画展示を開催した。内容は学部生・大学院生の作品発表、教員・研究室・ゼミナールの研究・活動成果発表等。詳細は「4 主要行事 生田図書館ギャラリー(名称 Gallery ZERO)展示一覧」参照。

3.4.4 ガイダンス及び情報リテラシー教育の充実

年度初め、理工学部2回(対象者計1,050名)、農学部1回(同590名)の新入生への図書館利用ガイダンスを実施。また、4月5日から同20日の間、昼休みを中心に設定した21回の館内フリーツアーに計20名、スタンプラリーには計80名が参加した。

4月5日には22名を対象に新任教員へのガイダンスを実施した。

次に年間を通じての活動として、18回のゼミツアーに計172名が参加した他、情報検索講習会(Web of Science, Scifinder, JDream II, EndNote Web)を全7回実施し、計55名の参加があった。

後期に実施した「就活Power up講座」(4回)、大学院生による「レポート・論文の書き方講座」(5回)については参加者が少なかった。また、新たな試みとして、学部生向けに大学院生が個別ニーズに対応する講座を計5回実施したが、やはり反応は良くなかった。開催時期、開催趣旨・対象等に関する学生ニーズについて一層の調査が必要である。

なお、2012年度も農学部からの依頼により、食料環境政策学科1年生の「基礎ゼミ」(受講者195名)のうち2コマ「図書館利用法と新聞記事検索演習」、「図書館を活用したレジュメ・レポート作成と文献検索演習」に計8回の出張講義を行った。

3.4.5 学習用図書選書

6月26日に理工・農両学部合同の「教員による学習用図書選書委員会」を開催し、学習用外国書購入費の執行に関する選書方法、学生の図書館利用促進等について意見交換を行った。学習用外国書購入費(政策経費)の生田配分額58万円の執行にあたっては、教員に推薦を募り、寄せられた62点に自然科学

分野のレファレンスブックから選書したものを加えた計 65 点を購入した。また、学生によるブックハンティングを 6 月 2 日と 11 月 10 日に実施し、計 486 冊の選書のうち 377 冊を購入した。

3.4.6 特集コーナーの企画

期間毎に設定したテーマについて関連資料を新着図書コーナー隣の書架に配架し、利用者に読書に親しんでもらう機会とした。

2 月 15 日(水)～ 4 月 17 日(火)	図書館スタッフのリコメンブック
4 月 18 日(水)～ 5 月 29 日(火)	ブックハンティング本特集
6 月 4 日(月)～ 6 月 26 日(火)	ものづくり
6 月 29 日(金)～ 7 月 24 日(火)	科学と心
7 月 26 日(木)～ 9 月 25 日(火)	ブックハンティング本特集
9 月 26 日(水)～10 月 23 日(火)	不思議アラカルト
10 月 24 日(水)～11 月 20 日(火)	食を読む
11 月 21 日(水)～12 月 18 日(火)	働く, を考える
12 月 19 日(水)～ 2 月 3 日(日)	ブックハンティング本特集

3.4.7 川崎市立図書館との相互協力

川崎市立図書館(全館)との協定 3 年目。ライブラリーカード(LC)作成者数は前年と同数であった。一方、貸出冊数の伸びが顕著で LC 作成者一人当たり 42 冊にのぼる。入館者数は前年度を下回ったが、2・3 月の空調工事による利用制限の影響が大きく、当該期間中に例年並みの入館者があったと仮定すると、むしろ前年度を上回る。近隣の一部市民が熱心に利用している状況が見て取れる。2009 年度(川崎市立多摩図書館のみとの協定)からの推移は以下のとおり。

	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
LC 作成者数	40 名	137 名	58 名	58 名
入館者数	2,804 名	3,271 名	4,046 名	3,788 名
貸出冊数	1,466 冊	1,805 冊	2,061 冊	2,452 冊

3.4.8 生田保存書庫資料のカビ除去作業

9 月末に生田保存書庫地下 2 階配架資料の一部約 1 万 2 千冊に、カビの発生が確認された。湿度を感知するサーモの不具合により、除湿コンプレッサーが作動せず、書庫内の湿度が高くなったのが原因であった。該当階の配架資料の利用を停止すると平行して、11 月 5 日(月)～8 日(木)の 4 日間で業者によるカビ除去作業(HEPA フィルター付掃除機吸い取り, エタノール拭取り, 除菌剤 BV4 の噴霧)を実施した。不具合部品の交換も行い、現在は適切な保管環境を維持している。

3.4.9 その他

生田図書館は 1969 年開館で、各種館内改修は施されたものの建物としての老朽化が進んでいる。2010 年度に策定された生田キャンパスマスタープランにおいても建替えが急がれる施設の一つに挙げられている。2012 年度前期には、図書館内に教員 3 名(副館長及び図書委員)と図書館職員 6 名による WG で新図書館のコンセプト、必要な施設・規模等について議論し、生田キャンパスの将来計画策定に向けた検討材料として、生田グランドキャンパス専門部会に対し「生田キャンパス新図書館構想」を提出した。